
仮面ライダーディケイド もう一つの完結編

ポリゴン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド もう一つの完結編

【Nコード】

N9946I

【作者名】

ポリゴン

【あらすじ】

ライダー大戦の開始から2ヶ月後・・・この物語を終わらせるため、ディケイドの最後の戦いが始まる！
MOVIE大戦2010とは違う、もう一つの結末がここにある！！

終わりの始まり（前書き）

劇場版を見て触発され書き始めてしまいました。基本はディケイドの最終回でやっていた予告を元に書いていくつもりです。

まだ小説を書くことに慣れてませんが、頑張りますので、よろしく
お願いしますm（――）m

終わりの始まり

ライダー大戦の始まりから2ヶ月後・・・。

どこかの砂浜。

そこに青年は一人、立っていた。

「なんとか・・・逃げ切れたか・・・。」

そう言った青年の身体はボロボロで、着ているコートもところどころ破れている。

「そろそろ・・・年貢の納め時・・・かもな・・・。」

そう呟くと青年は倒れた。

手に何枚かのカードを握りしめたまま。

そう。その青年こそが門矢士。

世界の破壊者たる、仮面ライダーディケイドであつた。

「こんな所にいたか・・・。探したぜ。」

その時、倒れこんだ青年に近づくと影があったことを、気絶した青年は勿論、誰も気づく者などいなかった・・・。

世界の破壊者ディケイド

全てのライダーの敵となり、その瞳は何を見る？

『仮面ライダーディケイド』

もう一つの完結編』

どこかの工場

そこには、たくさんのライオトルーパー達とそれを率いる、仮面ライダークウガ、小野寺ユウスケの姿があった。

「隊長！　これを！」

ライオトルーパーの一人がユウスケにある物を差し出す。

それは士がいつも持っていたピンクのカメラだった。

「これは士の……。ディケイドは近くにいる可能性が高い！
急いで見つけ出せ！！」

「はっ！！」

何十人というライオトルーパー達は工場周辺の搜索に向かう。

「待っている、士。 仮面ライダーディケイド！ お前を倒し、俺が王になる！！」

ユウスケの顔には以前の彼からは想像もつかないような邪悪な笑みが浮かんでいた・・・。

「恐らく、奴がディケイドと接触する頃だろう。」

私はそろそろ計画を実行するが・・・お前はどつする?」

「ワタシは彼女に力を貸してあげることにするわ。この事態を収集出来るのは彼女ぐらいでしょうし。」

「クウガの事はどつするつもりだ。」

「ユウスケのこと? 大丈夫よ。アレは基本、ワタシの都合の良
いように動くからね。」

「いまいち信用ならんな・・・裏切るなよ。」

「アナタと手を組んだ覚えは無いわよ。利害が一致しただけ。
私に命令出来るのは、彼だけだもの。」

さまざまな思惑が交差する中、鳴滝とキバーラも水面下で動き始めていた……。

「ん……………ここは……………」

士が目覚めると、どこかの小屋の中に運ばれていた。

「一体……………誰が……………」

「よう。起きたか。」

士の目覚めに気付いたのか、一人の男が小屋に入ってきた。

その男は

「!?

お前は・・。
」

その男は士と同じ顔、姿をしていた。

本物と偽物（前書き）

更新がかなり遅くなってしまい、申し訳ありません？

設定を考えるのに時間がかかってしまいました。

説明が多くて読みにくいと思いますが、楽しんで頂けたら幸いです
す m (——) m

本物と偽物

「はあ．．．。」

ユウスケと土が去り、そして祖父である栄次郎が突然失踪し、一人きりになってしまった光写真館で、光夏海は溜め息をついた。

ライダー大戦が始まってから2ヶ月。土は無事なのか、ユウスケは一体何処に行ってしまったのか、祖父はなぜ失踪したのか、世界はどうなってしまうのか．．．。心配は尽きないがどうする事も出来ない。

「土君たち、一体何処に居るんでしょうか．．．。」

「気になるかい？ あいつらの事が．．．。」

夏海が振り返ると、そこにいたのは、かつて土達と共にアポロガイストと戦った、仮面ライダーディエンドこと海東大樹であった。

「海東さん！！」

「やあ、2ヶ月ぶりだね。相変わらず、この店は繁盛してないみたいだけど。」

「そんなことより海東さん、その傷．．．。」

「たいしたことないさ、ちょっと他のライダー達とやり合ってね。」

海東は笑って強がるが、その体は傷だらけであり、とても大丈夫には見えない。

「とにかく手当てしないと．．．。」

「大丈夫だって、このくらい。」

「大丈夫じゃありません！！とにかく手当てが第一です！！」

「やれやれ．．．。」

どうやら悪態をつく力も残っていないようで、おとなしく夏海の手当てを受け始めた。

治療後

「海東さん、一体今まで何をやってたんですか？」

手当てが一通り済み、夏海は海東に質問し始めた。

「ライダー大戦が始まったあの時．．．僕は土を乱戦の中、何とか逃がして、土を追うライダー達と戦ってきた。今までずっとね。」

ライダー大戦の中、海東は土に『インビジブル』のカードを使って土を逃がし、ずっとライダー達と戦っていたのだ。

「じゃあ、土君は無事なんですね!？」

「何とも言えないな。命がけて逃がしてやったんだから生きててもらわないと困るけど。」

「なんで．．．なんで土君はこんな目に合わなくちゃいけないんですか!？　たくさん辛い思いをして、今まで戦ってきたのに．．．。これじゃ、土君が可哀想すぎます．．．。」

「理由か．．．。多分、土本人も分かってないだろうね。　今まで正しいと思って戦ってきたわけだし。」

「海東さん．．．。何か知ってるんですか？」

「．．．．．土に一番近かった君になら、話してもいいかな。といっても、僕も詳しくは知らないんだけど。」

そう言つて一息置くと、海東は話始めた。

「簡単に言えば、土が『世界を救う方法』を間違えてしまったってことなんだ．．．。」

どこかの小屋

「誰だ、お前．．。何だ、その姿．．。」
土は呆然としていた。

目の前に現れた、自分と全く同じ姿の男に。

「久しぶりだな、偽者。まあ、そっちは俺の事なんて覚えてないだろうが。」

「偽者？ 覚えてない？ 一体何の話だ！」

「うるせえな。焦らなくても教えてやるよ。お前が一体、何者なのか。」

「俺が何者なのか・・・だと？」

「ああ。よく聞け、門矢士。お前は」

「お前は俺のクローンだ。」

再び光写真館

「方法を間違えた？　一体どういう事ですか、大樹さん。」

「士は今まで幾つもライダーの世界を旅してきた。そして、その世界のライダーと心を通わせ、戦ってきた。」

「はい。　どの世界でも士君はそうしてきましたけど・・・何が間違ってるっていうんですか？　士君もちやんと、力を取り戻してきましたし。」

「まあ、厳密に言えば間違っている訳じゃないんだけど、今回の場合は例外さ。」

「例外？」

「そのやり方を実行しても大丈夫なのは、世界が正しい形の時だけさ。けど、今まで士が訪れた世界は、崩壊の影響で歪んでしまった世界、本来の形とは異なる、再構築された世界。」

「歪んだ世界・・・。」

「それで、その歪みを正すには、歪んだ世界のライダー達を倒す必要があつたんだ。」

「歪んだ世界・・・。」

「それで、その歪みを正すには、歪んだ世界のライダー達を倒す必要があつたんだ。」

夏海は士達を旅立たせた、あの白いセーターを着た青年の言葉を思い出す。

「創造は破壊からしか生まれない……。あの言葉はこういう意味だったんですね……。」

「そう。だけど士は間違ってしまった。もう世界を救う方法は士を、ディケイドを倒すしかない。そう考えたオリジナルの世界のライダー達は世界を救う為に動き始めた。」

「オリジナルの世界のライダー？」

「正しい世界。再構築される前の世界のライダー達のことだよ。以前、士を襲ったブレイド、剣崎一真。キバ、紅渡。彼らがオリジナルさ。まあ、歪みの影響で、ちょっと過激な性格になっているがね。」

「士君……。」

夏海が土の無事を願っていた頃、土は自らの現実と向き合おうとしていた・・・。

本物と偽物（後書き）

前書きに書けなかったので一応書いておきますが、夏の映画「オーライダー対大ショッカー」は無かった事にして進めていきますので、ご了承ください。

観測者（前書き）

未だに上手く書けてませんが、ストーリーだけでも楽しんで頂きたいです。

よろしくお願いします

観測者

どこかの小屋

「クローン．．．だと？」

「そうさ。俺のDNAを基に造られた、偽者だ。」

「つまり．．．お前が本当の『士』だと？．．．。」

「ああ。俺が本物の門矢士だ。」

「．．．ふざけるな！」

自らを本物の門矢士と自称する男の言葉に苛立ちを隠せなくなった士はその男に殴りかかる。

が、

「うっとうしいな、偽者風情が．．．。」

そう呟くと奴はディケイドライバーを取り出した。 黒いディケイドライバーを。

「!？」

「変身．．。」

男は土と同じ手順でディケイドへと変身する。

『カメンライド．．ディケイド!』

土のものとは異なる低いトーンの電子音。

「ぐあっ！」

変身の衝撃で小屋の壁に叩きつけられる土。

「お前、その姿は．．。」

男は変身したのだ。

ディケイドに。

しかしバツクルと同じく、体の色は土のものとは異なっていた。

「黒い．．．ディケイドだと？」

「お前はもう、用済みだ。消えろ。」

黒いディケイドの手にはケータッチがにぎられていた。

「！？ いつの間に。」

「これは返してもらおう。」

黒いディケイドは一歩一歩、土に近付いて行く。

「まだ使えるかと思って回収したが．．．見当違いだったな。こんなことなら、あのまま野垂れ死にさせておけばよかった。」

「くっ．．．。」

そして黒いディケイドはライドブッカーの銃口を土に向ける。

「終わりだ。」

しかし、

『さっせんぞ!』

突然、土と黒いディケイドの間に現れたオーロラのような幕が土を守る。

「!?!? これは・・・。」

そのままオーロラは土を通り抜け別の世界へと誘った。

「鳴滝め、小賢しい真似を・・・。」

荒野

「・・・ここは・・・。」

士は荒野へと導かれていた。

「無事だったか、ディケイド。」

そこにいたのは、あの鳴滝であつた。

「鳴滝！ 何故お前が俺を？」

「まずは謝らせてくれ、ディケイド。 今までの行いを。 本
当の済まなかった。」

突然、土下座して謝ってきた鳴滝に面食らう士。

「な、何だよ いきなり・・・。」

「私は奴の、オリジナルの門矢士の計画を止める為に動いていたん

だが．．．。 やり過ぎていた。すまない。」

「どういう事だ。 鳴滝、お前は一体何者なんだ。」

鳴滝は少し黙ると口を開き

「私は世界を外側から見守る観測者。」

「観測者？．．．」

「この世に無数に存在する世界を外側から見守り調整するものにとだ。」

「その観測者がなんでこんな所にいる？ 外側から見守ってるんだろ。」

「．．．．復讐だ。」

「何？」

「私と同じ観測者にして、門矢士の母、門矢ユウキの敵討ちだ。」

士は呆然とした。その言葉に。

「母・・・親？」

観測者（後書き）

ハチャメチャな設定になってきましたが・・・がんばっていきます。

次話では核心に迫って行きます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9946i/>

仮面ライダーディケイド もう一つの完結編

2010年10月10日15時51分発行